



NIHS特別講演会（殿町#29）

演題

栄養疫学：食品衛生学における役割を考える



講師

佐々木 敏 先生

東京大学大学院 医学系研究科 社会予防疫学分野 教授

要旨

食べ物に含まれる栄養素は人が食べて初めて栄養素として機能する。有害物質も同じである。食べ物は薬剤と異なり、種類が多いうえに分類も規格の統一もむずかしく、かつ、自由摂取である。そのうえに、ひとつの栄養素や有害物質が複数の食品に由来することも多い。

したがって、栄養学や食品衛生学では「食品に含まれる栄養素や有毒物質の量の測定」と「人（集団）における食品の摂取量の測定」がその両輪となる。この輪の大きさが等しいことが肝要である。「輪の大きさが等しい」とは、ほぼ同じ数の研究者が、ほぼ同じ額の研究費を使い、ほぼ同じレベルの研究を行い、適切な車軸によってそれらが連結された結果が社会活用されることを意味する。わが国ではどうか？

今回は、「人（集団）における食品の摂取量の測定法」を扱う学問である「栄養疫学」の基本的な考え方とその手法を紹介し、食品衛生学において「栄養疫学」が果たすべき役割を考えたい。

ご略歴

京都大学工学部、大阪大学医学部医学科卒業後、大阪大学大学院、ルーベン大学大学院博士課程修了。医師、医学博士。国立がんセンター研究所支所、国立健康・栄養研究所などを経て現職。

いち早く「EBN（科学的根拠に基づく栄養学）」を提唱し、日本人が健康を維持するために摂取すべき栄養素とその量を示したガイドライン「日本人の食事摂取基準」（厚生労働省）策定において2005年版から中心的役割を担う。

一方で大学院生らの運営による東京栄養疫学勉強会の世話人・講師を務めるなど日本の栄養疫学の発展に尽力する。

日時

2022年12月23日（金）

13：30～14：30 ハイブリッド開催

国立医薬品食品衛生研究所 2階 共用会議室 開場13：00

オンライン：WebEx

【オンライン参加申し込み】

<https://nihs-aflex2.webex.com/weblink/register/r78581b3135d74b01a8bfdd4c737e1bfa>
から登録をお願いします。（締め切り12月21日）

【お問い合わせ先】 国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部 畝山智香子
電話：044—270—6588 メール：uneyama@nihs.go.jp